

平成 26 年 6 月 6 日

杉並区長 田中 良殿

杉並区立科学館の存続と自然教育に関する要望書

杉並区立科学館は前身の施設を含めて 40 年以上の歴史をもち、実際の実験やプラネタリウム、科学者の講演会等を通じて児童生徒、一般の方々に科学の面白さ、重要性を広めるのに重要な役割を果たしてきました。ところが杉並区の資料「杉並区立施設再編整備計画（第一期）・第一次実施プラン」（平成 26 年 3 月）には「学校教育部門と生涯学習部門の機能を分離したうえで、現施設は廃止」と記されています。この歴史ある施設が廃止の危機にさらされているとのニュースに接し、自然史科学の一端を担う日本古生物学会から危惧を述べさせて頂きたいと思います。

今まで杉並区立科学館は児童の科学教育に多大な貢献を果たしてきました。各学校では行えないような実物や大型装置を用いた実験、動的に天文運動を学ぶことができるプラネタリウムを用いた教育など、多くの杉並区民が評価する事業を行い、成果を上げてきました。さらに生物、地学関係の科学教室の実施、科学者を招いて一般の区民を対象とする講演会は多くの聴衆を得て、連続して行われています。

このような、科学館が今まで果たしてきた重要な役割、そして今後の果たすべき役割をまず重視して頂ければと思います。老朽化した施設やバリアフリー化は確かに処置すべき問題ですが、そのために本来の目的である科学館の使命が二の次にならないような配慮が求められると思います。「杉並区区民等の意見提出手続」の結果報告書（杉並区立施設再編整備計画、平成 26 年 1 月）にありますように、区民の方々、教員からも科学館の存続を願う意見が多数出されたことは特記すべき事です。

また科学館の機能が一部他の組織に移転するとも聞いておりますが、その際、小中学生の基礎的な理科教育で重要な位置を占める自然に関する基礎教育を縮小することなく、継続して頂ければ幸いです。特に身の回りの自然を観察し、そこから科学的な考えを導き出すという基本的な姿勢を生徒に身につけることができるような教育は非常に重要です。

どうぞ今後の理科教育の益々の発展と充実のため、歴史ある科学館の存続と自然科学教育の一層の振興をご考慮いただき、杉並区の理科教育のさらなる発展を切に要望いたします。

日本古生物学会 会長
大路樹生